

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	温故知新プロジェクトNo.1「古文書撮影技術による地域潜在的労働力の顕在化」	
事業主体 (連絡先)	まほろばの里研究会 (駒ヶ根市梨の木 6-57 電話 0265-81-5374)	
事業区分	(3)教育・文化の振興に関する事業 (6)オ その他地域の特色、個性を生かした事業	
事業タイプ	ソフト	
総事業費	1,299,999 円	(うち支援金：960,000 円)

事業内容

- 撮影スタジオ、歴史事務所設営技術伝授作業等
(セッティング)
- 古文書講習会 (古文書活用講座と古文書調査)
 - * 古文書活用講座 (基礎) 開催 2回
 - * 公民館・博物館講座へ参加 3回
 - * 博物館・小町屋家の調査、資料保存 5回
- 「古文書撮影技術講座」指導：公文書情報管理士
 - * 高画質カメラ・保存ソフト撮影技術講習 3回
- 「古文書電子化講習」(解析、電子化・集積化)
 - * 古文書 DATA の解析・電子化・集積講習 3回
- こまがね歴史フットパス・ジャンボリー
 - * 事業取組 (古文書撮影保存での地域活性) 紹介



【古文書撮影の様子】

【目標・ねらい】

- ① 地元の魅力所発見 (歴史・自然)
- ② 歴史や文化の継承
- ③ 歴史的財産の保全の必要性
- ④ デジタル保存の有効活用
- ⑤ 地域観光事業の活性化

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

地域の古文書や歴史文物により、先人たちの歴史の中での生き様、地域のコミュニティ形成の歴史や文化の継承努力、生き抜く知恵と地域の特性を子供たちに伝えていく必要性を参加者に共有していただいた。

また、参加者には本年の台風被害での歴史的文物(古文書、古地図等)の浸水被害による流出、破損、紛失や首里城火災での貴重な文化財の焼失の話題とともに、調査や講習を通じて古農家などの消滅により日常的に所有者の都合で転売、焼却、襖の下紙への再利用等、地域の歴史的財産が急速に消えている現実を認知いただき、早急な保存活動の必要性を痛感していただけた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

貴重で大切な古文書等の歴史的文物資料が無くなってしまいう前にデジタル保存(電子データ一化)する重要性をさらに広く広域的に発信し、IC技術の進捗に合わせて解読ソフトを活用した次世代への現代語での伝承資料として残すため、公的機関や学校、各地域の高齢者団体、企業等への働きかけと連携強化により、中学・高校での引きこもり生徒や高齢者、身体障害者が膨大な歴史資料の電子化保存作業就労によって社会参画活動を図る取組の構築を進める。

※自己評価【A】

【理由】
 災害や火事によって、貴重で大切な古文書資料や歴史的財産を失う前に、デジタル保存する重要性を知って頂き、デジタル撮影のレクチャーにより、皆さんに関心を持って頂く事ができた。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
 「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある